



内子座 藝於遊

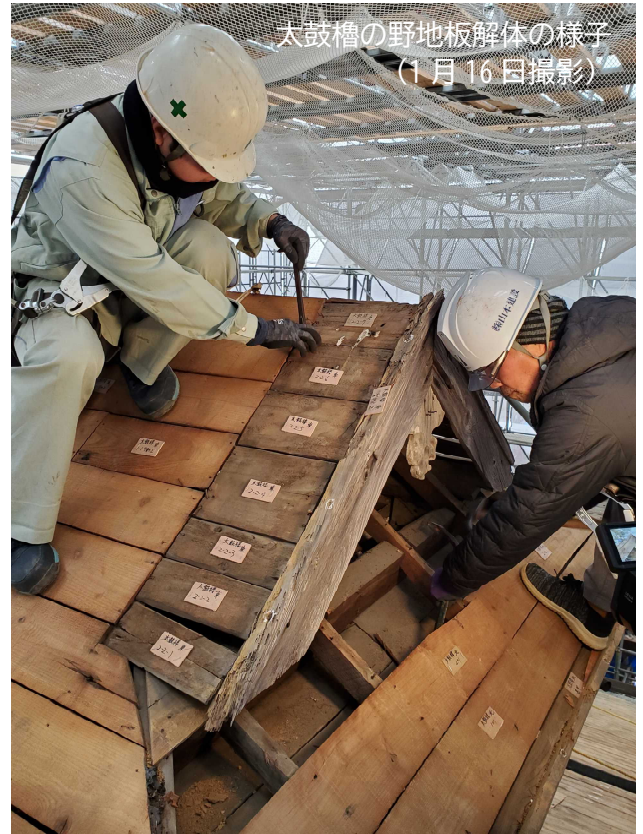


屋根まわりの木部の解体①

年が改まり令和8年1月16日、今年度の木部工事の最後になる屋根まわりの解体が始まりました。年明けからはこれまた野地板一枚一枚に番付作業が行われており、その完了とともに野地板解体作業に移りました。まず着手したのは太鼓櫓の野地板解体です。

屋根まわりの木部について、軒先に近い場所には、大正のオリジナルと思われる木材が使用されています。創建当初からその場所で使われていたかどうかは不明瞭ですが、木部が見える部分には古い材が使用されている、と言えます。昭和の復原修理の際に、意図してそのように工事が行われたのだと考えられます。

続いて着手したのが大屋根の越屋根部分です。越屋根は野地板だけでなく、ガラリと呼ばれる通風部分の板も解体されました。すぐ下の写真はその様子です。内子座の棟木に腰かけての作業です。なんだかうらやましい！

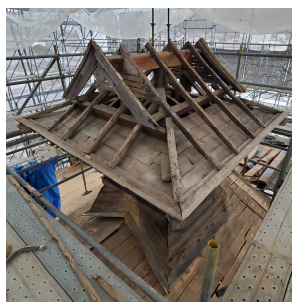


太鼓櫓の野地板解体の様子
(1月16日撮影)



内子座の松

みなさん、内子座の中庭に松が植わっていたのを覚えていらっしゃるでしょうか。工事に伴い2年前の3月に移植し、造園屋さんに管理していただいています。移植時には、クレーンで吊られた松を内子保育園児とともに見送った(写真下左)のも楽しい思い出です。現在(写真下右)も元気で内子座への帰りを待っています。



▲野地板解体後の太鼓櫓と骨組みとなった越屋根の様子